



社會黨鎮壓法(Ausnahmegesetz)ノ終始(1)

福田, 徳三

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 2(5):569-578

(Issue Date)

1907-05

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051137>



社會黨鎮壓法 (Ausnahmegesetz) ノ終始 (其一)

法學博士 福田 德三

千八百七十八年五月十一日柏林ウンテル、テンリンデンノ街上ニ於テ獨逸皇帝ヲ狙撃セルモノアリ。名ヲ Hödel ト稱スル品性劣等ノ一無賴漢ニシテ、生レテ父ヲ知ラズ、又タ惡疾ノ固着セルモノアリ文明國ニ免ル可カラザル一種ノ Menschliches Wrack ニシテ、齡僅カニ成童ニ達スル時、既ニ竊盜罪、浮浪罪ノ科歷ヲ有シ、人ヲ怨ミ世ヲ恨ミ、或ハ無政府黨ニ加ハリ、或ハストツカアノ徒ト結ビ、終リニ社會民主黨ニ入ラントシテ拒絶セラレタルモノナリ。彼ガ皇帝狙撃ノ不逞ノ舉ヲ敢テシタル動機ノ那邊ニ有スルヤ、元ヨリ知ル可カラズト雖モ、之レヲ以テ自己ノ姓名ヲ喧傳セシメントノ陋劣ナル非望其大部分ヲ爲シタルコト、之レヲ推スルニ難カラズ。然レドモ時ノ帝國宰相ビスマルク公ハ是レヲ以テ社會民主黨ノ教唆ニ出ヅルモノトナシ、直チニ「社會民主黨鎮壓除外法」ノ發布ヲ企テタリ。其主要ノ點ハ社會民主主義者ニ對シ出版竝ニ結社ノ自由ヲ制限スルニアリテ、全部六ヶ條ヨリ成ル。其有效期

限ハ三ケ年トス。然レドモ此法ハ「ブンデスラート」ニ於テ既ニ異議ノ續出スルモノアリ。帝國議會ヲ通過スルノ望甚ダ微弱ナリキ。國民自由黨ハ之レヲ目シテ警察權ノ不當ナル増大ナリトシ、僧侶黨亦タ之レニ對シ痛切ニ反對シタリ。終ニ此法案ハ五十七ニ對スル二百五十一ハ大多數ヲ以テ否決セラル。然ルニ此事アリテ後未ダ數日ナラズ、同年六月二日 Dr. Nobiling ナルモノアリテ、再度皇帝狙撃ノ非舉ヲ敢テシ、前回ニ反シ、皇帝ハ爲メニ重傷ヲ被ル。ノビリングハホエーデルニ反シ、教育アリ財産ヲ有スル農家ノ出ニシテ、空想ニ富ミ、野心ニ充テルコト亦遙カニ此ニ越ヘタリ。而シテ其素行其品性ノ最下層ニ屬セルニ至テハ二者共ニ選ブ所ナシ。社會民主黨史ノ著者 Franz Mehring 此ノ暴舉ヲ評シテ曰ク、

Ueber das hinterlistige Abschiessen eines mehr als achtzigjährigen Mannes, der politisch längst allen Hass überlebt hatte, empörten sich die weitesten Volkspreise. Auch die sozialdemokratische Presse war weit davon entfernt, das zweite Attentat so spöttisch zu behandeln, wie sie das erste mit vollem Recht behandelt hatte; sie verkannte keinen Augenblick den Ernst der Lage, der durch Nobilings Schrotschüsse geschaffen worden war.—Geschichte der deutschen Sozialdemokratie. 3. A. Stuttgart 1906. 4. Bd. S. 139.—

ト以テノビリングガ社會民主黨ト何等ノ關係ナキヲ見ル可ク、以テ彼レガ不逞ノ舉ノ如何ニ時人ノ憤慨ヲ激勵シタルカヲ知ル可シ。頽齡ノ人ハ其ノ地位身分ノ如何ナルトヲ問ハズ之レヲ敬重シ之レヲ慰藉セントスルハ人間ノ至情ナリ。況ンヤ萬民ノ齋シク仰ク尊貴ノ人ニ對シテオヤ。如何ニ兇暴無殘ナル「ラツク」ニテモ苟クモ人ノ心ト人ノ涙トアルモノナラバ、這般ノ暴舉ヲ敢テスルコト考フ可カラズ。ノビリングハホエーデルト共ニ一種ノ精神病者ナリシト斷ズルコト、蓋シ、最モ當ヲ得タリ。然レドモ精神病者ナリトモ既ニ一度人ノ心ヲ有シタルモノナラバ、兇惡此クノ如キニ至ル、甚ダ解ス可カラザルニ似タリ。精神病理ノ詮索ハ姑ク措ク、此ノ不可解現象ノ續發スルニ至レル當時獨逸ノ國民心理ノ變態ハ社會研究者ノ細心考究ヲ要スル所ニ屬ス。而シテ此レガ責任ハ獨リ一部ノ階級ニ止マラズ、否ナ其大ナル部分ハ懸テ爲政者ノ肩土ニ存ス可シ。不幸當時獨逸ノ經國者ハ自ラ深ク之レニ依リテ猛省シ、身ヲ以テ其救治ノ長計ヲ成スコトニ代ヘテ、區々小巧小策ヲ弄シテ皮相淺薄ノ手段ニヨリテ之レヲ壓抑セント試ミタリ。加フルニ血湧キ頭熱セル國民ヲ以テス、誠ニ後代ノ眼ヲ以テ之レヲ見ル、當時ノ獨逸ハ笈々乎トシテ夫レ甚ダ

危カリシモノト云ハザル可カラズ。Guido Weiss ガ時ヲ嘲テ Der Kaiser har die Wunden und die Nation das Wundfeber (a. a. O. S. 139) ト云ヘル豈ニ他時ノ人ヲ戒ムルニ足ラズトセンヤ。

此事アリ、即チ曩ニ社會黨除外法ニ極力反對シタリシ國民自由黨ハ急轉直下之レガ採納ヲ公言シタレドモ、ビスマルク公ハ之レニ倚ルヲ欲セズ。自立自決時局ニ方ラントシテ、六月十一日帝國議會ノ解散ヲ斷行シ、七月三十日ヲ以テ總選舉ヲ行フ可キコトヲ命ゼリ。而シテ同時ニ社會民主々義者ニ對シテハ告發、家宅搜索、拘引、集會解散、新聞差押ヲ續發セシメ、此レヲ困迫窮追シ、身ヲ措クニ處ナカラシム。メーリング氏ハ當時ノ警察官ガ集會解散ノ理由トシテ指摘シタルモノヲ列舉スル左ノ如シ。

曰ク、集會場ノ中央ニ通路ヲ設ケズ、危險ノ恐アルニ付解散ヲ命ズ

曰ク、集會場ノ窓ヲ明ケ放チアルハ戶外ノ集會ト認ム可キガ故ニ、其届出ナキ無法ノ集會トシテ解散ヲ命ズ

曰ク、集會場外ヨリ硝子窓ニ倚リテ觀望スルモノアルハ、硝子ヲ破リテ人命ニ危

害ヲ及ボス可キ虞アルモノト認メ解散ヲ命ズ

曰ク、會衆中「好笑」(lächerlich)ト叫ブモノアリタルニヨリ解散ヲ命ズ

曰ク、辯士ノ言中高笑スルモノタルニヨリ解散ヲ命ズ

曰ク、集會場ニ犬ノ彷徨シタルヲ不法ト認メ解散ヲ命ズ

(前掲書百四十頁)

新聞紙ニ對スル檢束モ之レニ劣ラズ。タトヘハハレニ於テハ新聞發行號數ト同數ノ編輯人獄中ニアリ。蓋シ新聞發行一部毎ニ其署名編輯人直チニ拘引セラレタルモノナリ。又社會民主黨ニ屬スル勞動者ハ決シテ使用セズト盟約スル工場ノ數益々加ハリタルガ爲メ、政治上ノ迫害ニ加フルニ經濟上ノ迫害ヲ以テシタリ。而シテ Majestätsbeleidigungsprozesse (予ハ此語ヲ邦語ニテ不敬罪ト譯スルヲ欲セズニ者決シテ同シカラザレバナリ) ノ數ハ驚ク可キ程激増セリ。メーリングガ其狀ヲ叙シテ、

Bis in den Schoss der Familie drang die ekelhafte Seuche ; der Gatte war nicht mehr vor der Gattin, der Vater nicht mehr vorm dem Sohne sicher. (S. 141).

ト云ヘルモノ必ズシモ誇張ト目ス可カラズ。人事ノ慘蓋シ此ノ上ニ出ヅルモノナ

シ。今日ニ於テモ嫉妬誇張ノ謗ヲ脱了セザル獨逸人相互ノ最モ皮肉ナル復仇法ハ敵ヲ羅織シテ Majestätsbeleidigungsklage ニ陷穽スルニアリトセラル、コトハ獨逸ニ遊ビタル外國人ノ克ク知ル所ナリ。兎フ可キ哉、因習ノ罪。當時伯林駐劄ノ米國公使ガ華盛頓ノ國務卿ニ稟請シテ獨逸ニ來ル米人ニ對シテ一切政治上ノ談話ヲナサル様注意セラレンコトヲ望ミタルノ一事、克ク萬事ヲ語ルニ足ラズヤ。當時 Majestätsbeleidigungsprozess ノ總問屋ト知ラレタル伯林裁判所第七部ハ六月八日ノ一日ニ於テ七人ノ被告ニ總計二十二ヶ年六ヶ月ノ禁錮ヲ宣告シ、此月一ヶ月各被告ニ對シ宣告セラレタル禁錮ノ通計期間ハ無慮五百年ニ及ベリト云フ。

總選舉ノ結果ハビスマルク公ノ希圖セル如ク、國民自由黨ノ數ヲ減ジ、保守派ノ數ヲ増シ、ビスマルク公ハ百十五票ノ多數ヲ確實ニ得、最早議會ノ向背ニ關シテ意ヲ勞スルニ及バザルニ至レリ。之レニ反シ社會民主黨壓迫ノ一事ハ毫モ成效ヲ見ズ。元ヨリ議員ノ數ハ十二名ヲ五名ニ減ズルヲ得タレドモ、之レガ代償ハ甚ダ高價ナルモノナリキ。蓋シ後年社會民主黨ガ議會政策ニ主力ヲ傾注シ、議會ニ於ケル一大勢力トナレルコト玆ニ胚胎スルナリ。而シテ殘レル數名ハ院外ニ於テ言論ノ自

由ノ全ク杜絶セラレタルトキ、議會ノ壇上ヨリ全國民ニ對シ最モ有力ナル言論ヲ擅マニスルヲ得タルコト、決シテ輕視ス可カラズ。社會民主黨ノ議會政策トハ議會ヲ以テ目的トスルモノニアラズ、議會ヲ一ノ手段トシ一ノ避難港トシテ此ニ倚リ此レヲ通シテ國民ヲ動かスニアリト稱セラル。

而シテ社會民主黨内部ノ組織殊ニ選舉運動ノ巧妙ヲ極ムル、實ニ此間ニ於テ學ビ得タル所ナリトス。而シテ追選舉十六ノ内七ハマタ社會民主黨ノ手ニ歸セリ。

同年十月十九日 *Ausnahmegesetz gegen die gemeingefährlichen Bestrebungen der Sozialdemokratie* (社會民主黨者ノ公安危害運動ニ對スル除外法)ハ百四十九ニ對スル二百二十一票ノ多數ヲ以テ帝國議會ヲ通過ス。此法案提出ノ理由トシテ政府ノ議會ニ示シタル所左ノ如シ。

社會民主黨義ノ運動ハ近世ノ社會主義竝ニ共產主義ノ極端ナル學說ヲ實際上ニ現實スルヲ以テ目的トス。此等ノ學說ニ從ヘバ現在ノ生産組織ハ不經濟的ニシテ資本ガ勞働ヲ掠奪スルモノトシテ排斥ス可キモノナリ。勞働ハ資本ヨリ解放セザル可カラズ。私有資本ハ共有資本ニ轉ゼシメザル可カラズ、競争ニヨリテ

支配セラル、個人的生産ハ秩序的ナル共働的生産ト爲サル可ラズ而シテ個人ハ社會ニ包含セラレザル可カラズ。社會民主々義ハ他ノ凡テノ博愛的運動ト異ナリテ勞働階級ノ狀態ノ改善ハ現在ノ社會組織ノ下ニアリテハ到底期ス可カラズトシ、唯ダ社會革命ノミ之レヲ能クス可シトナス。……………故ニ自衛ノ原則ハ國家ト社會トヲ驅テ此運動ニ對シ極力反對ス可キヲ命ズ。元ヨリ人間ノ思想ハ外部ノ壓抑ニヨリテ制止シ得可キモノニアラズ。然レドモ如此運動ガ誤レル道ヲ取り破壊的タル可キ危險ヲ示ストキハ之レガ普及ノ道ヲ合法的ノ手段ニヨリテ杜絶ス可キハ當然ナリ。……………今ヤ社會民主々義ハ國家ト社會トニ對シ公然戰闘ヲ挑ミ其轉覆ヲ以テ彼等ノ目的ナリト宣言セリ。是レ彼等ガ萬人同權ノ特典ヲ自ラ抛ツ所以ニシテ、國家ガ其ノ安全ト秩序トヲ維持スルガ爲メ必要ナル程度ニ於テ之レガ壓抑ノ法制ヲ設定スルハ當然ニシテ、彼等ハ之レヲ非難スルノ理由ヲ有セザルモノナリ。

(Dawson, German Socialism and Ferdinand Lassalle. 1891. p. 251-2. ヲ參照ス可シ)

此法ハ千八百八十一年五月迄有効期限トス。然レドモ爾後多少ノ修正ヲ見タル

ノミニシテ千八百九十年十月ニ至ルマデ存續シタリ。全部二十二項ヨリ成ル。此除外法ノ最モ重要ナル條項ハ次ノ如シ。

第一條 社會民主的、社會主義的、共產主義的運動ニヨリテ國家並社會ノ現存制度ヲ破壞スルヲ目的トスル結社ヲ禁止ス

此項ハ國民ノ各階級間ノ平和ヲ危フ可キ運動ヲ目的トスル結社ニモ準用ス

第九條 同上ノ傾向ヲ有シ國家並社會ノ現存ノ秩序ヲ破壞スルヲ目的トスル集會ハ解散ヲ命ズ

公然此目的ヲ示セザルモ事實如此傾向ヲ有スト認ラル、集會亦之レニ準ズ。

公ケノ祭典並ニ行列モ亦タ之レニ準ズ

第十一條 同上ノ傾向ヲ有シ公ケノ安寧ヲ危フシ殊ニ國民ノ各階級間ノ調和ヲ脅カス印刷物ハ之レヲ禁止ス。

定期刊行物ニ就テハ其當該號以下ノ續刊ヲ禁止スルコトアル可シ

第十六條 同上ノ目的ヲ助ク可キ寄附金ノ蒐集ハ警察官ノ認定ニヨリテ之レヲ禁止ス可シ

第二十條 同上ノ金錢ハ之レヲ沒收シタルトキハ貧民救助基金ニ繰入ル可シ

第二十四條 同上ノ運動ヲ爲スヲ以テ業トナスモノハ警察官ノ認定ニヨリ公

ケニ文書ヲ頒布スルコトヲ禁ジ竝ニ印刷物行商ノ權ヲ剝グコトヲ得

第二十八條 同上ノ運動ニヨリテ脅カサル、危險アル地方ニ於テハ當該聯邦

中央警察官ハ「ブンデスラート」ノ許可ヲ得テ次ノ事項ヲ施行スルヲ得

(一)種類ヲ問ハズ凡テ集會ヲ開クトキハ必ズ豫メ警察官ノ許可ヲ要スト規定スルコト但シ帝國議會竝各聯邦議會議員選舉ノ爲メノ集會ヲ除ク

(二)公ケノ道路、街上、廣場等ニ於テ印刷物ヲ頒布スルヲ禁ズルコト

(三)危險ノ處アル者ノ居住ヲ禁ズルコト

(四)武器ノ所持、輸入、販賣ヲ禁ジ制限シ又ハ之レニ條件ヲ附スルコト

而シテ此第二十八條ヲ適用スルヲ稱シテ「小戒嚴令」ヲ布ク「Kleiner Belagerungszustand

ト名ク。何ゾ夫レ仰山ナル。進歩黨ノ領袖 Engen Richter ガ「予ハ此法ノ下ニアル社會

黨ヲ以テ此法ナキ社會黨ヨリモ恐ル可キモノナリト信ズ」ト議會ニ公言シタルモ

ノ必ズシモ先見ノ明言ト誇ルヲ要セズ。メーリング曰フ Die Entrechtung der deutschen

Arbeiterklasse war vollbracht, aber ihr Heldenzeitalter hob an. (a. a. O. S. 152) ト果シテ然リヤ

否ヤ。請フ事實ノ教フル所ヲ聞カン。(未完)